

第 4 講

位置ベクトルと図形への応用 (平面) 入門

1 この講で学ぶこと

学習目標

- 位置ベクトルの概念を理解する
- 線分の内分点・外分点の位置ベクトルを求められる
- 三角形の重心の位置ベクトルを導出・応用できる
- 3 点が一直線上にある条件 (共線条件) を理解・活用できる
- 2 直線の交点の位置ベクトルを係数比較法で求められる

2 要点整理

位置ベクトルとは

解説

平面上に定点 O (基準点) を定めると, 任意の点 P の位置は, ベクトル \overrightarrow{OP} によってただ 1 つに決まる。このとき, \overrightarrow{OP} を点 O を基準とする点 P の位置ベクトルといい, 小文字の \vec{p} などで表すことが多い。点 P の位置ベクトルが \vec{p} であることを, $P(\vec{p})$ と表す。

2 点 $A(\vec{a}), B(\vec{b})$ について, \overrightarrow{AB} は位置ベクトルを用いて次のように表せる。

$$\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA} = \vec{b} - \vec{a}$$

線分の内分点の位置ベクトル

導出

2 点 $A(\vec{a}), B(\vec{b})$ を結ぶ線分 AB を $m:n$ に内分する点を $P(\vec{p})$ とする。点 P は線分 AB 上にあり, $AP:PB = m:n$ を満たすので,

$$n\overrightarrow{AP} = m\overrightarrow{PB}$$

が成り立つ。それぞれを基準点 O からの位置ベクトルに書き直すと,

$$n(\vec{p} - \vec{a}) = m(\vec{b} - \vec{p})$$

展開して \vec{p} について整理すると,

$$(m+n)\vec{p} = n\vec{a} + m\vec{b}$$

$$\vec{p} = \frac{n\vec{a} + m\vec{b}}{m+n}$$

特に, 中点 (1:1 に内分する点) の位置ベクトル \vec{m} は,

$$\vec{m} = \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2}$$

線分の外分点の位置ベクトル

導出

線分 AB を $m:n$ に外分する点を $Q(\vec{q})$ とする ($m \neq n$)。内分点の公式の n を $-n$ に置き換えることで,

$$\vec{q} = \frac{-n\vec{a} + m\vec{b}}{m-n}$$

三角形の重心の位置ベクトル

導出

3点 $A(\vec{a}), B(\vec{b}), C(\vec{c})$ を頂点とする三角形 ABC の重心を $G(\vec{g})$ とする。重心 G は, 中線 AM を 2:1 に内分する点である。

辺 BC の中点 M の位置ベクトルは,

$$\vec{m} = \frac{\vec{b} + \vec{c}}{2}$$

線分 AM を 2:1 に内分する点 G の位置ベクトルは,

$$\vec{g} = \frac{1 \cdot \vec{a} + 2 \cdot \frac{\vec{b} + \vec{c}}{2}}{3} = \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{3}$$

3点が一直線上にある条件 (共線条件)

解説

異なる3点 A, B, C が同一直線上にあるとき,

$$\overrightarrow{AC} = k\overrightarrow{AB} \quad (k \text{ は実数})$$

これは「 \overrightarrow{AC} が \overrightarrow{AB} の実数倍で表せる」ことを意味する。

ワンポイントアドバイス!

交点の位置ベクトルを求める問題では、「2つの直線上の点である」という2つの条件から式を2つ作り、係数を比較する解法が王道である。その際、「 \vec{a}, \vec{b} が $\vec{0}$ でなく、平行でもない（一次独立）」という一文を必ず答案に書く必要がある。これを書き忘れると減点されることが多いので注意せよ。

3 例題

問題 1

問題

3点 $A(\vec{a})$, $B(\vec{b})$, $C(\vec{c})$ を頂点とする三角形 ABC において、辺 BC を $3:1$ に内分する点を D 、辺 AB を $2:3$ に外分する点を E 、三角形 ABC の重心を G とする。点 D, E, G の位置ベクトルを $\vec{d}, \vec{e}, \vec{g}$ を用いて表せ。

解説

公式にそのまま当てはめる。

点 D (内分点の公式, $m = 3, n = 1$):

$$\vec{d} = \frac{1 \cdot \vec{b} + 3 \cdot \vec{c}}{3 + 1} = \frac{\vec{b} + 3\vec{c}}{4}$$

点 E (外分点の公式, $m = 2, n = 3$):

$$\vec{e} = \frac{-3\vec{a} + 2\vec{b}}{2 - 3} = \frac{-3\vec{a} + 2\vec{b}}{-1} = 3\vec{a} - 2\vec{b}$$

点 G (重心の公式):

$$\vec{g} = \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{3}$$

答え

D の位置ベクトル $\frac{\vec{b} + 3\vec{c}}{4}$

E の位置ベクトル $3\vec{a} - 2\vec{b}$

G の位置ベクトル $\frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{3}$

問題 2

問題

平行四辺形 $ABCD$ において、対角線の交点を O とする。 $A(\vec{a})$, $B(\vec{b})$, $C(\vec{c})$, $D(\vec{d})$ とするとき、 $\vec{a} + \vec{c} = \vec{b} + \vec{d}$ が成り立つことを証明せよ。

解説

平行四辺形の対角線は互いの midpoint で交わる。すなわち、点 O は線分 AC の midpoint であり、同時に線分 BD の midpoint でもある。

点 O の位置ベクトルを \vec{o} とすると、

$$\text{線分 } AC \text{ の midpoint } \Rightarrow \vec{o} = \frac{\vec{a} + \vec{c}}{2}$$

$$\text{線分 } BD \text{ の midpoint } \Rightarrow \vec{o} = \frac{\vec{b} + \vec{d}}{2}$$

よって、 $\frac{\vec{a} + \vec{c}}{2} = \frac{\vec{b} + \vec{d}}{2}$

両辺を 2 倍すると、 $\vec{a} + \vec{c} = \vec{b} + \vec{d}$ が成り立つ。

答え

(証明終)

問題 3

問題

三角形 OAB において、辺 OA を $2:1$ に内分する点を C 、辺 OB を $3:2$ に内分する点を D とし、線分 AD と線分 BC の交点を P とする。 $\vec{OA} = \vec{a}$ 、 $\vec{OB} = \vec{b}$ とするとき、 \vec{OP} を \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。

解説

点 C 、 D の位置ベクトルをまず求める。

$$\vec{OC} = \frac{2}{3}\vec{a}, \quad \vec{OD} = \frac{3}{5}\vec{b}$$

点 P は線分 AD 上にあるので、 $AP:PD = s:(1-s)$ とおくと、

$$\vec{OP} = (1-s)\vec{a} + \frac{3}{5}s\vec{b} \quad \dots \textcircled{1}$$

また、点 P は線分 BC 上にあるので、 $BP:PC = t:(1-t)$ とおくと、

$$\vec{OP} = \frac{2}{3}t\vec{a} + (1-t)\vec{b} \quad \dots \textcircled{2}$$

$\vec{a} \neq \vec{0}$ 、 $\vec{b} \neq \vec{0}$ であり、 \vec{a} と \vec{b} は平行でないから、 $\textcircled{1}\textcircled{2}$ の係数を比較して、

$$1-s = \frac{2}{3}t \quad \dots \textcircled{3}$$

$$\frac{3}{5}s = 1-t \quad \dots \textcircled{4}$$

$\textcircled{4}$ より $t = 1 - \frac{3}{5}s$ 。これを $\textcircled{3}$ に代入すると、

$$1-s = \frac{2}{3} \left(1 - \frac{3}{5}s \right) = \frac{2}{3} - \frac{2}{5}s$$

$$\frac{1}{3} = \frac{3}{5}s \implies s = \frac{5}{9}$$

$\textcircled{1}$ に代入して、

$$\vec{OP} = \frac{4}{9}\vec{a} + \frac{1}{3}\vec{b}$$

答え

$$\vec{OP} = \frac{4}{9}\vec{a} + \frac{1}{3}\vec{b}$$

4 演習問題

問題 1

2点 $A(\vec{a}), B(\vec{b})$ について、次の点の位置ベクトルを \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。

- (1) 線分 AB を $4:3$ に内分する点 C
- (2) 線分 AB を $5:2$ に外分する点 D
- (3) 線分 AB の中点 M

問題 2

3点 $A(\vec{a}), B(\vec{b}), C(\vec{c})$ を頂点とする三角形 ABC において、辺 BC , 辺 CA , 辺 AB の中点をそれぞれ L, M, N とする。三角形 LMN の重心 G' の位置ベクトルは、三角形 ABC の重心 G の位置ベクトルと一致することを証明せよ。

問題 3

3点 $A(-1, 2), B(3, 4), C(5, y)$ が同一直線上にあるとき、実数 y の値を求めよ。

問題 4

三角形 OAB において、辺 OA の中点を C , 辺 OB を $2:1$ に内分する点を D とし、線分 AD と線分 BC の交点を P とする。 $\vec{OA} = \vec{a}, \vec{OB} = \vec{b}$ とするとき、 \vec{OP} を \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。

問題 5

四角形 $ABCD$ において、辺 AB, BC, CD, DA の中点をそれぞれ P, Q, R, S とするとき、四角形 $PQRS$ は平行四辺形になることを、位置ベクトルを用いて証明せよ。

問題 6

三角形 ABC において、辺 AB を $1:2$ に内分する点を P , 辺 AC を $3:1$ に内分する点を Q とする。線分 BQ と線分 CP の交点を R とし、直線 AR と辺 BC の交点を D とする。 $\vec{AB} = \vec{b}, \vec{AC} = \vec{c}$ とするとき、 \vec{AR} を \vec{b}, \vec{c} を用いて表せ。

5 演習問題の解答・解説

問題 1

解説

公式をそのまま用いる。

$$(1) \vec{c} = \frac{3\vec{a} + 4\vec{b}}{7}$$

$$(2) \vec{d} = \frac{-2\vec{a} + 5\vec{b}}{3}$$

$$(3) \vec{m} = \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2}$$

答え

$$(1) \frac{3\vec{a} + 4\vec{b}}{7}$$

$$(2) \frac{-2\vec{a} + 5\vec{b}}{3}$$

$$(3) \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2}$$

問題 2

解説

点 L, M, N の位置ベクトルをそれぞれ $\vec{l}, \vec{m}, \vec{n}$ とすると、中点の公式より、

$$\vec{l} = \frac{\vec{b} + \vec{c}}{2}, \quad \vec{m} = \frac{\vec{c} + \vec{a}}{2}, \quad \vec{n} = \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2}$$

三角形 LMN の重心 G' の位置ベクトル \vec{g}' は、

$$\vec{g}' = \frac{\vec{l} + \vec{m} + \vec{n}}{3} = \frac{1}{3} \left(\frac{\vec{b} + \vec{c}}{2} + \frac{\vec{c} + \vec{a}}{2} + \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2} \right) = \frac{1}{3} \cdot \frac{2\vec{a} + 2\vec{b} + 2\vec{c}}{2} = \frac{\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}}{3}$$

これは三角形 ABC の重心 G の位置ベクトルに等しい。よって、 G' は G と一致する。

答え

(証明終)

問題 3

解説

$$\overrightarrow{AB} = (4, 2), \quad \overrightarrow{AC} = (6, y - 2)$$

3点 A, B, C が同一直線上にあるので, $\overrightarrow{AC} = k\overrightarrow{AB}$ となる実数 k が存在する。

$$(6, y - 2) = k(4, 2)$$

各成分を比較して, $6 = 4k \Rightarrow k = \frac{3}{2}$ 。よって,

$$y - 2 = 2 \times \frac{3}{2} = 3 \implies y = 5$$

答え

$$y = 5$$

ワンポイントアドバイス!

共線条件は, 「一方が他方の実数倍」として成分で方程式を立てるのが基本である。この計算手法は平面でも空間でも共通して役立つのでマスターしよう。

問題 4

解説

$$\overrightarrow{OC} = \frac{1}{2}\vec{a}, \quad \overrightarrow{OD} = \frac{2}{3}\vec{b}$$

点 P は線分 AD 上にあるので, $AP : PD = s : (1 - s)$ とおくと,

$$\overrightarrow{OP} = (1 - s)\vec{a} + \frac{2}{3}s\vec{b} \quad \dots \textcircled{1}$$

また, 点 P は線分 BC 上にあるので, $BP : PC = t : (1 - t)$ とおくと,

$$\overrightarrow{OP} = \frac{1}{2}t\vec{a} + (1 - t)\vec{b} \quad \dots \textcircled{2}$$

$\vec{a} \neq \vec{0}, \vec{b} \neq \vec{0}, \vec{a} \nparallel \vec{b}$ より係数を比較して,

$$1 - s = \frac{1}{2}t \quad \dots \textcircled{3}, \quad \frac{2}{3}s = 1 - t \quad \dots \textcircled{4}$$

④より $t = 1 - \frac{2}{3}s$ 。③に代入して,

$$1 - s = \frac{1}{2}\left(1 - \frac{2}{3}s\right) = \frac{1}{2} - \frac{1}{3}s \implies \frac{1}{2} = \frac{2}{3}s \implies s = \frac{3}{4}$$

①に代入して,

$$\overrightarrow{OP} = \frac{1}{4}\vec{a} + \frac{1}{2}\vec{b}$$

答え

$$\overrightarrow{OP} = \frac{1}{4}\vec{a} + \frac{1}{2}\vec{b}$$

問題 5

解説

点 A, B, C, D の位置ベクトルを $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}, \vec{d}$ とする。中点の公式より、

$$\vec{p} = \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2}, \quad \vec{q} = \frac{\vec{b} + \vec{c}}{2}, \quad \vec{r} = \frac{\vec{c} + \vec{d}}{2}, \quad \vec{s} = \frac{\vec{d} + \vec{a}}{2}$$

四角形 $PQRS$ が平行四辺形であることを示すには、 $\overrightarrow{PQ} = \overrightarrow{SR}$ を示せばよい。

$$\overrightarrow{PQ} = \vec{q} - \vec{p} = \frac{\vec{b} + \vec{c}}{2} - \frac{\vec{a} + \vec{b}}{2} = \frac{\vec{c} - \vec{a}}{2}$$

$$\overrightarrow{SR} = \vec{r} - \vec{s} = \frac{\vec{c} + \vec{d}}{2} - \frac{\vec{d} + \vec{a}}{2} = \frac{\vec{c} - \vec{a}}{2}$$

よって $\overrightarrow{PQ} = \overrightarrow{SR}$ が成り立つので、四角形 $PQRS$ は平行四辺形である。

答え

(証明終)

問題 6

解説

$$\overrightarrow{AP} = \frac{1}{3}\vec{b}, \quad \overrightarrow{AQ} = \frac{3}{4}\vec{c}$$

点 R は線分 CP 上にあるので、 $CR : RP = s : (1 - s)$ とおくと、

$$\overrightarrow{AR} = (1 - s)\overrightarrow{AC} + s\overrightarrow{AP} = \frac{s}{3}\vec{b} + (1 - s)\vec{c} \quad \dots \textcircled{1}$$

また、点 R は線分 BQ 上にあるので、 $BR : RQ = t : (1 - t)$ とおくと、

$$\overrightarrow{AR} = (1 - t)\overrightarrow{AB} + t\overrightarrow{AQ} = (1 - t)\vec{b} + \frac{3}{4}t\vec{c} \quad \dots \textcircled{2}$$

$\vec{b} \neq \vec{0}, \vec{c} \neq \vec{0}, \vec{b} \nparallel \vec{c}$ より係数を比較して、

$$\frac{s}{3} = 1 - t \quad \dots \textcircled{3}, \quad 1 - s = \frac{3}{4}t \quad \dots \textcircled{4}$$

③より $t = 1 - \frac{s}{3}$ 。④に代入して、

$$1 - s = \frac{3}{4}\left(1 - \frac{s}{3}\right) = \frac{3}{4} - \frac{1}{4}s \implies \frac{1}{4} = \frac{3}{4}s \implies s = \frac{1}{3}$$

①に代入して,

$$\overrightarrow{AR} = \frac{1}{9}\vec{b} + \frac{2}{3}\vec{c}$$

答え

$$\overrightarrow{AR} = \frac{1}{9}\vec{b} + \frac{2}{3}\vec{c}$$

6 仕上げチェック

確認リスト

1. 内分点, 外分点, 重心の位置ベクトルの公式を正確に覚えているか。
2. 交点の位置ベクトルを求める際に, s と $1-s$ などの係数設定を迷わず行えるか。
3. 平行四辺形などの図形の性質を, 位置ベクトルの等式として翻訳できるか。

お問い合わせや無料コーチングの予約はこちら！

